

「A 4、ミニマムになる」

—初稿—

2026/9/9

雨森 れに

〈人物表〉

小崎 泰智 (17) 高校生。身体強化者。関節ごとA4サイズ分伸縮する

富田 耀 (17) 高校生。身体強化者。力が強い

大伴 慶介 (68) 住宅街に暮らす定年退職者

西田 友佳 (26) アパートに暮らす主婦

赤ん坊

養護教諭

女性1

女性2

1. 住宅街・道（昼）

大伴慶介（68）が歩いている。

空を見上げる。スカッとした青空。

女性1 「うちも布団干さなくちゃねえ」

女性2 「久しぶりのお天気だもんねえ」

大伴、井戸端会議を横目に、周囲を見る。

どの家も洗濯物や布団を干している。

2. 高校・教室・内（昼）

休み時間で騒がしい教室。

小崎泰智（17）、席で「それいけレスキュー」という本を読んでいる。

富田耀（17）、バスケットボール片手に近づく。

耀 「おい、A4（エーヨン）。ゴール作れよ」

泰智、おどおどと耀を見る。

泰智 「僕、忙しいんだけど……」

耀 「それか、お前が弾むんでもいいけどよ」

耀、ボールを掴む手に力を入れる。ミシミシと音。

泰智 「い、いつもの感じだよね！」

泰智、慌てて立ち上がる。

腕をあげる。

関節ごとに30センチ弱ほど伸びる。

指先を組み、ゴール代わりの輪を作る。

耀、近くの同級生にスマホを渡す。

耀 「ちゃんと撮っとけよ」

耀、教室の端に移動。

ドリブルで近づく。

泰智の指先に向かって飛び上がる。

渾身のダンクシュート。

泰智 「あああああああ！」

泰智、ボールと共に崩れ落ちる。

関節が元に戻っていく。

しかし、指は戻らず、あらぬ方向に曲がっている。

耀 「撮れ高、最高」

泰智、悶え続けている。
耀 「うっせえよ。すぐ治んだろ」

泰智、痛みに耐えながら耀を睨む。

3. 高校・保健室・内（昼）

泰智、腕に包帯を巻かれ、三角巾で固定されている。

養護教諭 「しばらく身体強化禁止ね」

泰智 「足もですか？」

養護教諭、吹き出す。

養護教諭 「足？ 伸ばすの？」

泰智、養護教諭から目を逸らす。

泰智 「伸ばさないですけど」

養護教諭 「他のところにエネルギー使われちゃうからさ。せめて今

日明日はやめときなね。じゃないと知らないよお？」

と、おもしろげ。

泰智 「気を付けます」

4. 通学路（夕）

下校時間帯。生徒がまばらに歩いている。

サイレンの音。

泰智の横を消防車が通る。

泰智、消防車の行く先を見る。

遠くの住宅街から煙。

耀、泰智を後ろからどつく。

耀 「A4、火事見に行くぞ」

泰智 「僕、耀くんのせいで骨折してるんだけど」

耀、泰智の三角巾を引っ張って歩き出す。

耀 「俺の雄姿を撮るんだよ！」

泰智 「痛い！ もっと折れちゃう！」

耀 「んだよ」

耀、泰智を片手で担ぐ。

そのまま足に力を入れ、走り出す。

消防車を追い越し、一気に住宅街へ。

5. アパート・前（夕）

耀、泰智を降ろす。

目の前には燃え盛る三階建てアパート。

出火元は一階。手が付けられないほど燃えている。

近隣住民たちがバケツリレーをしているが追いついていない。

赤ん坊の泣き声。

友佳 「たすけてー！」

三階のベランダで西田友佳（26）が助けを求めている。腕に赤ん坊。

耀 「これ使え！」

耀、泰智にスマホを投げる。

すでにカメラが起動している。

耀、脚を伸ばして準備運動。

泰智 「まさか走っていく気!？」

耀 「あそこ」

耀が指さす。

アパートの側面。小窓しかなく、火の手が強くない。

そこに排水管がまっすぐに伸びている。

耀 「あれでよじ登って、帰りは飛び降りる！」

泰智 「いくら耀くんでも無理だよ！ だって！」

耀、走り出す。

6. アパート・横（夕）

壁を踏み込み、排水管を掴む。

耀 「あちいいいいい」

耀、転がる。

火の粉が顔につき、更に悲鳴。

泰智、耀に駆け寄る。

泰智 「こういうのは熱くなるんだってば……」

耀 「早く言えよっ」

一階から爆発音。

赤ん坊の泣き声が大きくなる。

耀、静かな声で、

耀 「じゃあどうすんだよ」

泰智、耀から視線を逸らす。

その先に民家。庭に布団が干してある。

あたりを見ると、布団を干している家が多い。

耀 「こんな能力あったって意味ねえじゃん！」

泰智 「あるよ」

耀、驚く。

泰智 「僕らで助けよう」

泰智の足元に包帯がはらりと落ちる。

7. アパート・前（夕）

泰智、両手を大きく広げている。

目を閉じて精神統一中。

周囲の人間は訝し気。

その中にいた大伴、近寄って、

大伴 「君、危ないから下がってなさい」

耀 「俺ら、身体強化者です」

大伴 「どんな能力？」

耀 「俺、筋肉。あっち、A4サイズの伸縮」

大伴 「ええ？」

耀 「見てろって」

泰智、目を開く。

上半身の関節という関節に縦30センチ弱、横21

センチ足される。厚みは増えない。

首が三階に近づく。体は二階程度の高さにある。

泰智 「僕が受け止めます！ 飛び降りてくださいい！」

周囲がどよめく。

大伴 「そんな細っこい体で無茶だよ！」

耀 「だから見てろって」

耀、大量の布団を抱えている。

泰智の後ろに積み上げる。

そして、布団の山を支えるようにして踏ん張る。

耀 「A4、行くぞ！」

泰智、体に入力を入れる。

体がA4以上に伸びていく。

泰智の髪が逆立つ。

腕を緩く組み前へ。ゆりかごのような形状。

大人二人包み込めるぐらいに大きい。

泰智 「早く！ ここへ！」

友佳、躊躇する。

二階から爆発音。

友佳、焦り、赤ん坊だけ投げる。

泰智、キャッチ。

バランスを崩し、布団へダイブ。

耀ががちりと支える。

耀 「泰智、もう一回いけるか」

泰智 「うん！」

泰智、傍にいた大伴に赤ん坊を渡す。

体勢を整え、体を伸ばす。

耀、布団を泰智に寄せる。

布団の斜面ができる。

耀、助走をつけ、駆け上がる。

泰智、倒れないよう堪える。痛みに耐える顔。

耀、泰智の背中を駆け上がり、跳ぶ。

友佳の元に着地。

友佳を担ぎ、飛び降りる。

三階から爆発音。

耀、友佳とともに布団の山に着地。

泰智、駆け寄る。

耀、拳を突き出す。

泰智、拳を合わせる。

泰智 「いったあああ」

耀 「そーいやお前、折れてんだっけ」

8. 高校・教室・内（昼）

休み時間。

泰智、書き物をしている。体は小学生ほどの大きさ。

耀、泰智の前の席に座る。

耀 「ミニマム、動画撮らねえ？」

泰智 「撮らない。今、小説書いてんだから」

耀 「能力使いすぎて小さくなった男の話？」

泰智 「うっさいな。救急隊の話だよ」

耀 「じゃあ俺がモデルだ」

泰智 「売れたら骨折の慰謝料としてもらっとくね」

耀 「骨は一日で治ったろー」

泰智、耀を小突く。

ふたり、笑い合う。

9. 住宅街・道（昼）

大伴が歩いている。

ベビーカーを押す友佳とすれ違う。

周囲を見る。

どの家も真新しい布団を干している。

空はスカッとした青空。

（おわり）